



# 学校だより

(1月号) 令和4年1月7日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

## 【学校の教育目標】

- ◎ 夢 (ゆめ) にむかって ともに学びあう学校
  - ・すすんで勉強する子
  - ・自分からあいさつのできる子
  - ・仲よくたすけあう子
  - ・じょうぶな子

《今月の生活目標》 感謝して 給食を食べよう

## 大切な絆育む 新開小学校

～家族・友達・地域～

校長 白石 徳一郎

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

「大切な絆育む 新開小学校」は、開校45周年記念に代表委員会の児童が話し合って決めた言葉です。デザインはハートを手で包みこみ、虹色に彩られています。優しく素直な新開小学校の子どもたちにピッタリの言葉とデザインだと思います。

さて、「大切な絆」にはいろいろあると思いますが、6年生に「あなたにとって一番大切なものは何ですか？」と聞いた時、多くの児童が「命」「家族」を思い浮かべました。多くの人にとって、一番大切な絆は家族の絆でしょう。横田めぐみさんのお父様は「家の中で家族と一緒に生活するという事は当たり前のことなんですけど、本当はすごく幸せなことなんです。家族が仲良く暮らすということ、気をつけていただければ一番幸せだと思います。」とおっしゃいました。当たり前だと思ふ日常に感謝し、家族を大切にす優しい子どもたちに育ててほしいと思います。

次に子どもたちにとって身近な絆は、友達との絆ではないでしょうか。友達は一生の宝物です。仲のいいクラスは、みんなが幸せです。「ハーバード大学成人発達研究」によると、「良い人間関係が私たちの幸福と健康を高めてくれる」ことがわかったそうです。よい人間関係を築くためにも、みんなが優しい子、思いやりのある子に育ててほしいと願っています。

やがて新開小学校を卒業し、子どもたちはそれぞれの道を歩み始めますが、小学校で育んだ絆がいつまでも消えることなく、大人になっても地域の絆につながってくれたら素晴らしいと思います。新開小学校の先輩後輩という絆もあるでしょう。新開小学校がますます皆様から愛され、皆様とともにある学校になれば幸いです。

現在、自治会長様をはじめとして46名の防犯ボランティアの方々を毎日、子どもたちの登下校の見守りをしてくださっています。お陰様で大きな事故もなく、子どもたちは安心して登下校することができています。手上げ横断も自分から進んでできる児童が増えてきました。手上げ横断は昨年、「交通の方法に関する教則」が改正され、43年ぶりに手上げ横断が復活し、信号機のない道路を横断するときには全年齢で手上げ横断をすることとなりました。交通安全教室では以前から、信号機の有無にかかわらず、手を挙げて渡ることを指導してきましたが、生活の中で手上げ横断をしている児童はほとんど見られませんでした。今、「手を挙げて渡ろうね」と言われて、きちんと手を

挙げて渡る子どもたちは、心が素直で素晴らしいと思います。手を挙げる理由は「①先生や地域の方に言われたから。」「②交通教則が変わったから。」「③手を挙げることは横断しますという合図なので手を挙げた方が安全だから。」「④車のドライバーに止まってくれてありがとうという感謝の気持ちも伝わるから。」など、いろいろあるかと思いますが、よい行いを進んでできるということは、大変いいことだと思います。

令和4年4月から、さいたま市立の全ての学校がコミュニティー・スクールになります。コミュニティー・スクールというのは、学校運営協議会を設置した学校のことで、今まで以上に学校、保護者、地域が子どもたちの健全な育成のために共通の目標をもち、連携・協働していきましようというものです。例えば、手上げ横断に取り組みましようという目標を立てたら、学校も保護者も地域の方も手上げ横断を呼びかけ、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てようとする事です。学校運営協議会委員の方が年3回話し合いを行い、目指す目標、方針を確認し、学校とPTA、地域のボランティアの方等が連携・協働していきます。

桜田にお住いの杉浦健治様に開校45周年記念として「新開小とわが町の歴史」のお話を全校児童にいただき、新開という地名は豊臣秀吉の時代に始まり、江戸時代の文献にも載っていること等を教えていただきました。子どもたちには歴史のあるこの町で育ち、大人になっても保護者として、また、地域の一人として、地域のため、そして、本校の子どもたちのために連携・協働してもらえたら嬉しく思います。

参考文献：「700人を75年間追跡した研究からわかった『幸せな人生を送る秘訣』」(ライフハッカー [日本版])



